



きみも大学図書館で働いてみないか : 仕事の魅力を伝え、志望者のすそ野を広げるには

伊原, 尚子
中山, 貴弘
有馬, 良一
井上, 敏宏
市川, 鈴子

(Citation)

図書館雑誌, 117(7):397-399

(Issue Date)

2023-07

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100492562>



特集★図書館の話題アラカルト

きみも大学図書館で働いてみないか

—仕事の魅力を伝え、志望者のすそ野を広げるには—

伊原尚子・中山貴弘・有馬良一・井上敏宏・市川鈴子

1. 活動の主旨・立ち上げの経緯

「きみも大学図書館で働いてみないか」実行委員会（以下、「キダハミ」という。）は、就活生や転職希望者に対して、国立大学図書館の職務内容や職員の働き方等を周知し、大学図書館が就職候補先のひとつとなることを目的とした国立大学図書館協会近畿地区協会の取り組みで、5大学図書館の職員が、大学の枠を超えて活動している。

近年の大学図書館には、図書や雑誌による情報提供のみでなく、学生への学術情報リテラシー教育支援や、大学発の研究成果の発信や、その過程の研究データの取扱い支援等が求められる。例えば今まで少なかった理系出身者等の多様な人材の活躍に期待が高まりつつある一方で、我々自身が大学図書館の魅力も含め、今求める人材を広く、正しく伝えられていないという反省があり、大学図書館が求める職員像を知ってもらうため、イベントとWebによる情報発信を行うこととした。

2. 予備調査活動

イベントの開催に先立ち、キダハミの活動戦略検討およびメンバー間の意識共有を目的として、予備調査を行った。調査の枠組みはマーケティング

要素の考えを援用し、次のように設定した。

- ①大学図書館での待遇や将来性、身につくスキル等：今後の採用活動を念頭に置きつつ、求職者が求めることを探るため、各メンバーの体験、経験を参考にしながらまとめた。
- ②求める人材の素養（知識、経験、モチベーション等）：司書課程のシラバス調査を行い、また統一試験の専門試験の出題傾向を分析した上で、メンバー内の管理職級職員に対してアンケートを実施した。
- ③就活市場の調査・学生動向調査：学生の就職状況や理系学生の就職活動の動向についてまとめ、また理系学生の就活に関するアンケートを実施した。
- ④民間企業・公務員の現況：大学図書館の採用と競合すると考えられる職種の採用方法や、転職を考えている層へのアプローチ等についてまとめた。

上述②のアンケートの結果、採用において適応性、協調性等の態度能力を重視する声が出出し、公共図書館の専門的職員に求められる司書資格を重視する声は少なかった。キダハミではこれらの状況も参考に、活動を進めていくこととした。

3. 100人の大学図書館員展

当該イベントはパネル展示とトークイベントの2本立てで開催した。このうち、前者のパネル展示「100人の大学図書館員展」は、全国の国立大学の図書館職員から募集したプロフィール118名分をトレーディングカード風にデザインして展示するもので、大阪大学・京都大学・神戸大学の各図書館で2月上旬に同時開催した。なお、展示館については、理系の学生の利用が多い館を優先した。

展示パネルには、各職員のプロフィールとあわせて「大学図書館で働く推しポイント」や「私の考える2050年の大学図書館」といった項目を設けるとともに、AIによる画像生成ツール“Stable Diffusion Online”を使用して作成したイラスト（アバター）および各職員の出身学部・学歴・資格をデザインとして入れ込んだ。パネルの作成にあたっては、“Stable Diffusion Online”に入力するプロンプトの組み合わせによりアバターのテイストをそろえ、展示全体に統一感を持たせた。加えて、職員の出身学部によって背景色を変える等、伝えたい情報を視覚的に表現するような工夫を行った。また展示会場には、見学者がパネルに対する感想や質問を自由にコメントできるよう付箋を設置するとともに、パネルにコメントがあった場合はSNSを使用して返信を行う等、双方向のコミュニケーションがとれる環境を整えた。

本展の目標は、大学図書館職員を目指す層のすそ野を広げることであったが、展示パネルを上述のようなデザインにしたことで、少数だが理系出身者もいること／司書資格を持っていない職員も

一定数いること／大学院修了者の数も少なくないこと等をわかりやすく伝えることができたと思う。

展示したパネルの電子版はキダハミのWebサイトで公開しているため、本展をご覧になられていない方は、ぜひWebサイトを参照されたい。

4. トークイベント

トークイベントは、既出の企画展示と併せて「トショカンインの時間」と題し、2023（令和5）年2月10日に大阪大学附属図書館総合図書館にて、現地とオンラインからの参加を交えて開催した。参加申込は、大学図書館に就職や転職を希望する方であれば誰でも可とし、後述のWebサイトに設置した予約フォームで受け付けた。結果、計59名（現地8，オンライン51）の参加があった。

現役の大学図書館職員が、仕事についての魅力等を対談形式で語ることとし、管理職（事務部長、課長）3名が前半を担当、また若手職員3名が後半を担当した。2組それぞれが参加申込時に受け付けた質問等をもとに自身の体験等を交えてトークを展開した。

管理職らは「エグゼクティブの時間」と題し、「職員に求めるスキル」「やりがいを感じるこ



等の質問に回答した。約30年の職務経験を披露し、大学図書館での仕事は一般的に思われている司書の仕事のイメージとは違うこと、今の時代の大学図書館にはさまざまな役割や機能等が求められていることを紹介し、多種多様な考え方や素養を持った人材を求めていると呼びかけた。

若手職員らは「ニューエイジの時間」と題し、比較的最近採用された自身の経験に基づき、学生時代のバックグラウンド、志望動機、就職活動、採用試験対策、現在の仕事内容、働いてみての感想等を語り、「どんな人とどんな仕事をしたいか」や「仕事への心構え」等の質問に答えた。未来の大学図書館について各自がイメージする将来像を披露する等、参加者と年代に近い世代ならではの感覚を活かしたトークを行った。当日の内容は要約をWebサイトで公開する予定である。

5. Web 広報 + 相互 SNS

大学図書館職員の職務内容について、情報発信と上述イベントの告知を行うため、Webサイトを開設するとともに、Twitter アカウントを作成し、広報を行った。

まずWebサイトには、「cast」ページを設け、「100人の大学図書館員展」のパネル118枚を掲載し、会場展示終了後も閲覧可能にしている。Twitterでは相互フォローを基本とし、匿名で質問できる“Peing-質問箱-”も活用して積極的な相互交流を図っている。寄せられた質問については、キダハミ内で意見を出し合って回答を作成し、それらをまとめてWebサイト「Q&A」ページで公開している。

そのほかTwitterでは、大学図書館職員の取り組んでいる意外な仕事等、随時情報発信を行っているため、ぜひフォローしていただきたい。

6. まとめ

大学は、最先端の研究がなされ、新たな学術情

報が生成される場であり、人を育てる場である。教育・研究を学術情報の側面から支える大学図書館の仕事は、読者の方の想像以上に、多種多様かつ変化に富んだものである。そこで働く我々自身は、その変化に戸惑いつつも、楽しみ、柔軟に対応するべく日々奮闘している。

図書館職員の志望動機として、「本が好き・図書館という空間が好き」という人は多い。キダハミでは、そこから一歩踏み込んで、「人が好き・新しいことに取り組みたい・最先端の研究に関わりたい」という意欲的な仲間を増やすべく、活動を継続していく。

きみも大学図書館で働いてみないか？

参考情報

キダハミ公式サイト

<https://www.kidahami.com>

キダハミ Twitter

<https://twitter.com/kidahami>

Stable Diffusion Online

<https://stablediffusionweb.com>

Peing-質問箱

<https://peing.net/ja/>

(いはら なおこ：京都大学附属図書館、なかやま たかひろ：大阪大学附属図書館、ありま りょういち：神戸大学附属図書館、いのうえ としひろ：大阪教育大学、いしかわ れいこ：大阪大学附属図書館)

[NDC10：017.7 BSH：1. 大学図書館 2. 図書館員]